

アジア・ビジネス創出プラットフォーム スタートアップ部会の最近の取り組み

「アジア・ビジネス創出プラットフォーム(ABCプラットフォーム)」の設立から2年半。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため実際の往来ができない状況が続いているが、テーマごとに設けた7つの部会を中心に、オンラインでの打ち合わせやイベントを通じて各国の企業・団体間の連携を促進し、ビジネスの創出をはかっている。

今号では、2020年4月に発足したスタートアップ部会の最近の取り組みや、さらなるビジネスマッチングに向けた関経連の取り組みなどについて紹介する。

ABCプラットフォームの歩み

関経連が脈々と築いてきたアジアとの確固たる絆。その信頼関係を最大限に活用し、アジア・関西間のビジネス創出のためにアジア7カ国の経済団体と協力して、2019年4月に設立したのがABCプラットフォームである。活動の主体である部会は、当初、「人材育成・活用」「医療・介護」「中堅・中小企業支援」「農業」「観光」の5つでスタートしたが、アジアの経済団体からのニーズに応え、2019年10月に「環境」、2020年4月に「スタートアップ」の部会を立ち上げ、現在は7分野でビジネスの創出に取り組んでいる。

スタートアップ部会の取り組み

スタートアップ部会の取り組みは、大きくインバウンド(アジアのスタートアップに関西企業を紹介し、日本進出を支援する)と、アウトバウンド(関西のスタートアップにアジアでのビジネスパートナーを紹介し、アジア進出を支援する)に分類される。この取り組みにおいて、2020年2月にタイに設置した当会のバンコクデスクは、タイ工業連盟をはじめ各国経済団体と直接的なコミュニケーションを行い、スタートアップのビジネスパートナーを発掘する上で重要な役割を果たしている。

■インバウンドの取り組み

多くの日本企業が欧米のスタートアップの技術動向に注目しているなか、アジアのスタートアップにも興味を持ってもらうことがインバウンド成功の鍵となる。セミナーの開催などを通じて、アジアにも技術的に進んだスタートアップが存在していることをPRしている。

実際にアジアのスタートアップと関西企業をマッチングさせる取り組みとしては、2021年3月3日に「課題解決を目的としたアジア圏のベンチャー企業と

のマッチングセミナー」をオンラインにて開催した。このセミナーは、「関西イノベーションイニシアティブ」(P.5「関経連NOW」参照)の代表機関である都市活力研究所と連携して実施したものである。セミナーでは、環境・エネルギー分野で課題を抱えるインドネシアから参加した、焼却灰で透水性ブロックを製造し水はけを改善するスタートアップや、太陽光発電駆動の漁船を製造するスタートアップが注目を集め、日本企業との連携を開始した。また、2030年までに食料自給率30%をめざすシンガポールからは、培養エビ肉を研究開発するスタートアップが日本企業との秘密保持契約に進んだ。参加した10社のうち2社がジャックフルーツを主原料とした代替肉を開発したスタートアップであるなど、Plant Based Food(植物性由来食、PBF)への関心の高さがうかがえた。PBFは、ムスリムフレンドリーなハラルフードやベジタリアン・ビーガン向けの食品、日本の精進料理とも関連性があり、近年は日本でも注目されていることから、観光部会でも活用の可能性を検討していくテーマとしてあがっている。

■アウトバウンドの取り組み

アウトバウンドにおいては、関西でグローバル展開を志向するスタートアップを見い出すことが第一歩となる。しかし、日本のスタートアップは進出先として欧米諸国を選ぶのが一般的であり、アジア市場をターゲットと考えるスタートアップを見い出すのは容易ではない。そこでスタートアップ部会では、当会のベンチャー・エコシステム委員会主催の「オープンイノベーションフォーラム」で登壇したスタートアップの中でアジアでもビジネス展開の可能性があると思われる企業に声をかけ、そのスタートアップの技術・商材をABCプラットフォームのウェブサイトに登録している。これらの情報をもとに、バンコクデスクと連携しながら、イベントなどを通じてアジアのビ

ビジネスパートナーとのマッチングをはかっている。こうした取り組みを通じて、京大発スタートアップが開発した肖像権のないバーチャルモデルを作成する技術を用いて、シンガポールの企業が日本茶を宣伝するなど、これまでに3件の商談が成立している。



ABCプラットフォームのウェブサイト

2021年1月25日には大阪府とともに「海外アクセラが集結！大阪・関西スタートアップ／ピッチ・メンタリングイベント」をオンラインにて開催した。これは、関西のスタートアップに海外進出に対する関心を持ってもらうことを目的としたもので、大阪・関西でこれから飛躍が期待されるスタートアップ5社の会社・事業紹介(ピッチ)に対し、海外のアクセラレータがメンタリングを行った。また、希望したスタートアップには海外のアクセラレータが個別相談に応じ、経験豊富な担当者から助言を得ることができる機会となった。



「海外アクセラが集結！大阪・関西スタートアップ／ピッチ・メンタリングイベント」の様子

■ インバウンドとアウトバウンドを融合させた取り組み

インバウンドとアウトバウンド双方向型のイベントも行っている。2020年11月25日にオンラインにて開催した「第1回インドネシア-関西デジタルスタートアップ商談会」は、在大阪インドネシア総領事館からの要望に応える形で企画したものである。イベントでは、インドネシアと日本のスタートアップ各

4社のピッチを行った後、スタートアップの技術に興味を持つ企業やアクセラレータとの個別商談会を実施した。インドネシアからは、オンライン診療を行いバイク便でその日中に処方薬を届けるスタートアップや、依頼したい案件が得意な弁護士を探すスタートアップが参加して注目を浴び、1件の商談が成立した。事前にある程度のマッチングを行った上で実施する本イベントは必要な情報が得られると参加企業から好評を博したため、第2回を2021年7月15日に実施した。インドネシアからは、動物由来でも石油由来でもない、環境にやさしい微生物由来の人工皮革を製造するスタートアップや、海藻を用いたプラスチック代替素材の食器を製造するスタートアップが登壇した。これらのイベントの企画・運営で得たノウハウを生かし、インドネシア以外の国との同様のイベントも鋭意企画中である。



「第2回インドネシア-関西スタートアップ商談会」の様子

さらなるスタートアップのマッチング成功に向けて

スタートアップ部会の立ち上げからわずか1年余の間に、5件のマッチングが成立した。こうした成果を出すことができたのは、スタートアップやそのビジネスパートナーとなる企業が、ABCプラットフォームという場を活用して相互に相手国の市場・技術などの魅力に気づくことができたためである。インドネシアやシンガポールを中心に活動を進めるなかで、ビジネスマッチングのノウハウを構築し、他国にもこれらの取り組みを展開して、さらなるビジネスの創出に向けて積極的に活動していく。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度は延期したシンガポールでの第2回全体会議を開催する予定である。それまでにより多くの成果を出すべく、各国経済界やベンチャー・エコシステム委員会との連携をさらに深めていく。

(国際部 京基樹)